第３次文教マスタープラン（第３次 BMP）
学校法人武田学園　中期経営計画

対象期間　2026（令和８）年度～2030（令和 12）年度

学校法人　武田学園

1. 学校法人武田学園、第３次文教マスタープラン（2026（令和８）年度～2030（令和12）年度）の策定にあたって

この度、2026 年度からの５年間を計画期間とする中期経営計画「第３次文教マスタープラン」を策定しました。
新年互例会や教職員研修会において、何度もお話しさせていただいておりますように、下げ止まらない出生数の影響により学園を取り巻く環境はますます厳しさを増してきています。

そうした環境に打ち克つため、本学園では 2014 年に制定した学園ミッション「文教生の豊かな人生の礎となる最高の教育」を実現させるために「文教マスタープラン 2020」（2016 年度～2020 年度）、「第２次文教マスタープラン」（2021 年度～2025 年度）を策定し、様々な改革に取り組んでまいりました。ただ、2020 年度から「高等教育の修学支援新制度」が始まり、更には 2026 年度より「高等学校等就学支援金」の開始により私立高校の無償化が始まるという本学園にとって追い風となる制度が始まった一方で、広島県の県外流出数（人口流出）が 2020 年度から５年連続で全国１位となる等、その間も本学を取り巻く環境は劇的に変化しています。

そうした環境変化の中においても、小規模でありながらも「学生・生徒・園児一人ひとりに寄り添う」学園を実現できれば、必ず道は開けるものと考えています。また、2021 年９月には本学は姉妹校として「ラセプラプセブ国際大学」を開学しており、学園生に対して国際的な教育を格安価格にて利用できる絶好の環境も揃っています。

そうした学園の強みを活かしつつ、将来にわたり中四国№1 の教育機関を目指すための基盤を形成することを念頭に置いて、「第３次文教マスタープラン」を策定しました。

新たな目標達成に向け、各部門での具体的なアクションが求められます。教職員全員が一丸となって、この中期経営計画の達成に向けて日々取り組んでいただけますようお願いいたします。

学校法人武田学園
理事長　武田義輝

2. 基本方針・特徴

中期経営計画の期間

中期経営計画の期間、令和 8 年4月1日～令和 13 年3月 31 日までの 5 年間とする。

これまでの中期経営計画

- 第 1 次文教マスタープラン（文教マスタープラン 2020）
  平成 28 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日（5 年間）
- 第 2 次文教マスタープラン　令和 3 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日（5 年間）

第 3 次文教マスタープランにおける学園の基本的な経営理念

- 地域と共に生きる「地域№1 の教育」を提供する学園
- 小規模であることを活かした「学生・生徒・園児一人ひとりに寄り添う」学園

実質化への取組方法

第 3 次マスタープランでは、計画の実質化を図るため、計画策定から実行段階において、以下の取組みを行うこととしている。

＜策定段階＞

- 計画の策定段階より経営強化委員が関与する。メンバーは、大学、高校、幼稚園および法人の教職員で構成する。
- 中間報告会および成果報告会により教職員全員が計画の進捗状況を共有し、計画に関して教職員も積極的な提案を行うことができる。

＜実行段階＞

- 各部門が AP を策定し、実行することで、AP および BMP の実質化につなげる。

＜見直し＞

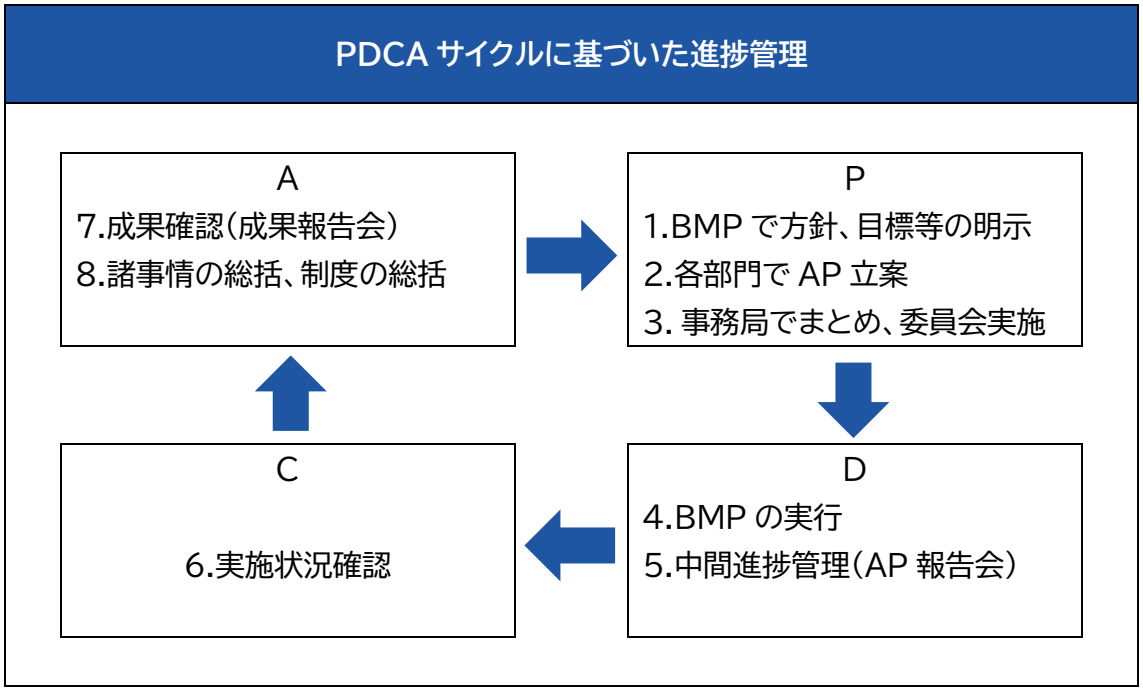
- BMP は、5年単位の計画であるが、3年目にそれまでの取組みを検証して、見直し箇所がある場合は、次期文教マスタープラン（第4次）に反映させる。

PDCA サイクルに基づいた進捗管理

- AP と BMP は、確実な実質化を行うため、PDCA サイクルに基づいて進捗管理を行う（担当：経営強化委員会　事務局/大学 B グループ
- 実行段階における進捗状況の確認と教職員への情報共有を図るため、以下の報告会を定期的に開催する。

① 成果報告会（毎年 4 月 15 日の学園創立記念日に開催）
前年度の成果報告会を実施する。報告会では、AP の前年度 1 年間の実績結を報告するとともに問題点や改善箇所をあげて効果的な次年度活動を目指す。

② AP 中間報告会（8 月初旬の教職員研修会に開催）
担当部門による AP 中間報告会を実施する。AP は、BMP を実現するために用意された行動プログラムであり、半年間の進捗状況を報告することにより担当組織の活性化と目標に対する達成度の確認を行う。



用語の説明

- BMP（文教マスタープラン）：学校法人武田学園の中期経営計画のこと
- AP（アクションプログラム）：BMP を実現させるための行動計画のこと

3.　武田学園（大学・高等学校・幼稚園）　理念・ビジョン等

学校法人武田学園では、以下「建学の精神」「教育理念」等を定め、広島文教大学、広島文教大学附属高等学校、広島文教大学附属幼稚園は、さらに「ミッション」「教育方針」を掲げ、教育研究活動を行っている。

武田学園　建学の精神・教育理念・学園訓・学園ミッション
建学の精神 真実に徹した堅実なる女性の育成 **教育理念** 育心　育人（人を育て　人を育てる） **学園訓** 一、真理を究め正義に生き勤労を愛する人になりましょう 一、責任感の強い逞しい実践力のある人になりましょう 一、謙虚で優雅な人になりましょう **学園ミッション** わたしたちは文教生の豊かな人生の礎となる最高の教育を行います

大学ミッション・ビジョン・教育方針
大学ミッション わたしたちは、質の高い教育ときめ細かな支援で学生一人ひとりの 成長を後押しし、社会に役立つ人材を育成します。 **大学ビジョン** 学生一人ひとりが誇りを持ち、自己実現に向けてたゆまぬ努力を続けている。 教員が一丸となって、堅実な研究と組織力をもとに、学生の心に響く教育活動を 実現している。 **教育方針** 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）

高等学校ミッション・BUNKYO SPIRITS・教育方針

高等学校ミッション

われわれは、さらなる教授力の確立に努め、
凛としてさやかな知性溢れる生徒を育成します。

BUNKYO SPIRITS

至誠にして　知性あふれる　自立した女性へ

教育方針

建学の精神に基づいた「心の教育」を進めること
”「主体的・対話的で深い学
び」により真の学力を育む教育を進めること”
”新しい時代を自立した女性として
逞しく生きる力を育む教育を進めること”

幼稚園ミッション・教育目標・教育方針

幼稚園ミッション

わたしたちは，モンテッソーリ教育により，
園児の豊かな人生の礎となる最高の教育を行います。

教育目標

「心豊かで　社会性に富み　自立した子ども」を育てます。

教育方針

建学の精神である「心を育て　人を育てる」を柱として，一人ひとりの園児への個別的な配慮のもと，「ひとりで　できた」という体験を積み重ねることにより自立を促し，3つの心「やさしい心」「すこやかな心」「つよい心」を育んでいます。

4.　第 3 次文教マスタープラン経営理念・将来ビジョン・実施目標 等

第 3 次マスタープランは、第 2 次までの取り組みの成果と課題を継承し、学校法人武田学園（大学・高等学校・幼稚園）の理念・ビジョン、直近の認証評価結果を踏まえるとともに、近年の急速な社会情勢の変化や私立大学を取り巻く環境を見据えて策定した。

まず、第 3 次マスタープランにおける経営理念として
① 地域と共に生きる「地域№1 の教育」を提供する学園
② 小規模であることを活かした「学生・生徒・園児一人ひとりに寄り添う」学園
を掲げる。

次に、各部門における 10 年後・5 年後・3 年後のビジョンを策定し、ビジョンを達成させるために、実施目標・実施計画・取組目標を設定した。

第 3 次文教マスタープラン期間は、「経営理念」「ビジョン」「実施目標・実施計画・取組目標」に基づいた学園運営を行う。

第 3 文教マスタープラン関係図

建学の精神 教育理念	真実に徹した堅実なる女性の育成 育心　育人（人を育て　人を育てる）
	↓
学園ミッション	私たちは、文教生の豊かな人生の礎となる 最高の教育を行います。
	↓
経営理念 （第 3 次 BMP）	① 地域と共に生きる「地域№1 の教育」を提供する学園 ② 小規模であることを活かした「学生・生徒・園児 一人ひとりに寄り添う」学園
	↓
ビジョン （第 3 次 BMP）	大学・高校・幼稚園 10 年後・5 年後・3 年後のビジョン
	↓
実施目標 取組目標 （第 3 次 BMP）	大学・高校・幼稚園　5 か年の目標・計画 教育力/募集力/就職力・進路実現力/経営力・部門収支

①学園部門ビジョン

10 年先のビジョン
【目指すもの】 ・地域と共に生きる「地域No.1 の教育」を提供する学園 ・小規模であることを活かした「学生・生徒・園児一人ひとりに寄り添う」学園 ・経済環境に連動した「教職員処遇水準」の維持 【目標達成のための前提】 ・教職員の能力向上 ・少数精鋭の教職員体制確立 ・各校定員の確保（大学 ：320 名×4 学年、高校 ：120 名×3 学年、幼稚園 ：40 名×3 学年＋年年少児 20 名）

5 年先のビジョン
【目指すもの】 ・地域と共に生きる「地域No.1 の教育」を提供する学園 ・小規模であることを活かした「学生・生徒・園児一人ひとりに寄り添う」学園 ・経済環境の変化から教職員を守るための「適正な処遇水準」への引き上げ 【目標達成のための前提】 ・少数精鋭の教職員体制の確立 ・各校定員の確保（大学 ：320 名×4 学年、高校 ：120 名×3 学年、幼稚園 ：40 名×3 学年＋年年少児 20 名） 【5 年以内での具体的な到達目標または施策】 ・教職員全体の処遇水準の見直しと成果に応じた処遇が可能となる人事制度の導入 ・部門ごと（大学は学科ごと）の成果が可視化できる独立採算制度の確立

3 年先のビジョン
【目指すもの】 ・地域と共に生きる「地域No.1 の教育」を提供する学園 ・小規模であることを活かした「学生・生徒・園児一人ひとりに寄り添う」学園 ・経済環境に連動した「教職員処遇水準」の維持 【目標達成のための前提】 ・教職員の能力向上 ・少数精鋭の教職員体制確立 ・各校定員の確保（大学 ：320 名×4 学年、高校 ：120 名×3 学年、幼稚園 ：40 名×3 学年＋年年少児 20 名）

②大学部門ビジョン

10 年先のビジョン
【「教育力の文教」ブランドの展開と発展】 社会状況の変化や人々の価値観の多様化が進行することで、未来社会は、我々の予測を超えた姿を見せるはずであるが、変化・多様化を常に的確に受け止め、地域社会の要請に応え得る教育の実現に努める。また、本学のアイデンティティである建学の精神と「育心育人」の教育理念とをよりどころとする堅実な教育の伝統は、いささかも変わるものではない。 教育理念を変わらず守り続けること、そして変化への対応に怯むことなく取り組むことの両立によって、「教育力の文教」ブランドをさらに展開、発展させ、小規模であっても教育力において他の追随を許さない、オンリーワンの大学となる。 （三つのポリシーに係る定量的目標） 就職満足度：全学科 95%以上／授業評価アンケートにおける到達度評価：安定的に 3.5 以上／入学定員充足率：全学で安定的に 100%

5 年先のビジョン

【「教育力の文教」ブランドの定着】

建学の精神と「育心育人」の教育理念とに基づく丁寧な教育、また時代や社会の養成に即応した教育改善によって再構築された「教育力の文教」というブランドが、社会的な信頼と受験層への最大の訴求ポイントとして広く認知されるようにする。小規模であっても、中四国屈指の教育力によって学生一人ひとりの成長を後押ししながらその夢の実現をしっかりと支援し、基礎力と実践力とを兼ね備えた人材の輩出をいっそう確かなものとする。

そして、確かな人材育成実績と豊かな教育研究資源とによって、地域(広島市北部並びに芸北地域)唯一の高等教育機関として、地域になくてはならない、地域社会から信頼される大学であり続けることを広くアピールできるようにする。

(三つのポリシーに係る定量的目標)

就職満足度:全学科 95%以上/授業評価アンケートにおける到達度評価:安定的に 3.5 以上/入学定員充足率:全学で安定的に 100%

3 年先のビジョン

【「教育力の文教」ブランドの再定義と再構築】

全ての教育研究活動において、建学の精神に謳う「真実に徹すること」「堅実であること」を教職員全員が心に留め、「育心育人」の教育理念に基づく、誰一人として置き去りにしない丁寧な教育によって学生一人ひとりの成長を後押しする。また、国際教育や文理横断型教育等の、時代の要請に応え得る教育の推進によって、大学全体の教育の質向上を図る。さらに、各学部・学科ごとに「教育力の文教」の具体的内容について再定義を行い、その再構築と定着に努める。

そして、確かな教育力と豊かな教育研究資源とによって、地域(広島市北部並びに芸北地域)唯一の高等教育機関として、地域からの信頼を獲得する。

(三つのポリシーに係る定量的目標)

就職満足度:全学科 90%以上/授業評価アンケートにおける到達度評価:安定的に 3.5 以上/入学定員充足率:全学で安定的に 100%

③高校部門ビジョン

10 年先のビジョン
【目指すもの】 ・私立女子高校ならではの温かく丁寧な教育と高大連携の強みを生かし、地域ナンバーワンの学校になる。 ・主体性溢れ個性輝く生徒を育てる教育力で、オンリーワンの教師集団となる。 【目標達成のための前提】 ・確かな教育力を育成する研修体制の確立 ・定員確保の恒常化（120 名×3 学年）

5 年先のビジョン

【目指すもの】
・私立女子高校ならではの温かく丁寧な教育と高大連携の強みを生かし、地域ナンバーワンの学校になる。
・主体性溢れ個性輝く生徒を育てる教育力で、オンリーワンの教師集団となる。

【目標達成のための前提】
・健全な心身の育成と体力向上を図る体育施設の充実
・定員確保の維持（120 名×3 学年）

【5年以内での具体的な到達目標または施策】
・生徒が培ってきた力を発揮する地域貢献の実質化
・教育力を磨き高め合う持続可能な OJT 体制の確立

3 年先のビジョン

【目指すもの】
・私立女子高校ならではの温かく丁寧な教育と高大連携の強みを生かし、地域ナンバーワンの学校になる。
・主体性溢れ個性輝く生徒を育てる教育力で、オンリーワンの教師集団となる。

【目標達成のための前提】
・知の拠点であり探究的な読書センターとなる学校図書館の充実
・定員確保の実現（120 名×3 学年）

【5年以内での具体的な到達目標または施策】
・高大連携のもとでの LCIC の積極活用
・多様な生徒への教育力を発揮できる教員数の確保

④幼稚園部門ビジョン

10 年先のビジョン
・安佐北区と安佐南区において、保護者が大切な子どもを“通わせたい”と、最も高い評価を得られる認定こども園を目指しています。 ■多くなっている共働き家庭の子どもたちが、両親の一年の育休明けより、安心してモンテッソーリ教育実施の園に通えるように、認定こども園になります。保護者がこの幼稚園に通わせたいと思っていただけるように、教職員の共通意識を高め、またモンテッソーリ教育の学びを深めていきます。 認定こども園は、1歳～就学前までの園児を対象とします。教職員は、1歳～就学前までのモンテッソーリ教育を深め、教育の質を高めていきます。また、インクルーシブ教育にも更に取り組んでいきます。

5 年先のビジョン

・安佐北区と安佐南区において、保護者が大切な子どもを“通わせたい”と、最も高い評価を得られる幼稚園を目指しています。

■この幼稚園に通わせたいと思ってくださる保護者が低年齢児から本園に通い、活動内容を育児の参考にする、教職員が育児の相談を受けながら保護者の心に寄り添う、活動中に保護者同士が育児の情報交換をするなどのさまざまな役割を果たせるように子育て支援の一環のころころフレンズ（未就園児クラス）を充実させていきます。
そのために、教職員を増員すると共に、園児一人一人に全教職員が共通理解を持って関わられるように、モンテッソーリ教育による未就園児保育の研修等にも参加して、学びを深めていきます。

3 年先のビジョン

・安佐北区と安佐南区において、保護者が大切な子どもを“通わせたい”と、最も高い評価を得られる幼稚園を目指しています。

■通わせたい幼稚園とは、保護者にとって幼稚園生活を通しての園児の育ちが日々実感でき、入園時の生活の自立から卒園時の小学校生活に対応できる生きる力を身に着けるという見通しがつき、在園中、安心し、信頼して通園できる幼稚園と考えます。
当園は保護者から好評を得ているモンテッソーリ教育を基盤として、園児の日々の育ちのために、豊かな物的環境の整備をし、様々な体験ができる行事を組み、人的環境である経験豊富な教職員が保育を展開しています。モンテッソーリ教育の精神を持った教職員を増やします。さらなる保育の充実のために、教員のモンテッソーリ教育免許取得率を上げるとともに既免許取得者も内外の研修に参加して資質向上に努め、モンテッソーリ教育実施という特色を濃くしていきます。

大学実施　目標/取組内容・数値目標（一部抜粋）

取組項目	実施目標 MP（5 年後）	取組内容／数値目標
①教育力・教育力に基づく地域連携	授業評価アンケートにおける到達度評価において安定的に 3.5 以上とする。	授業評価アンケートにおいて評価が 3.0 未満の授業が安定的に 3.0 以上となるように授業改善の仕組みを構築する。
	グローバル人材を育成するための具体的取組を実施する。	「多文化共修」を行う科目の開発・実施 日本人学生の海外留学促進/在学生の3割 外国人留学生の受入れ/10 人以上
	地域における「知の拠点」としてリスキリングを含むリカレント教育を推進する。	大学教員の研究に関わる情報を大学ホームページより提供する リカレント教育のためのプログラムをプラットフォームに提供する
②経営力	財務基盤の正常化・安定化	運用資産－外部負債をプラス 経常収支差額を経常的に黒字化してA3以上にする（私学事業団「定量的な経営判断指標に基づく経営状態」）
	部門別収益管理の強化	部門別の収益状況がリアルに反映できる管理システムの導入
	教職員の処遇水準の改善	物価上昇に応じた賃金テーブルの是正を図る。
	人事評価制度の改正	学園への貢献度に応じた処遇が受けられる人事評価制度を構築する。

大学実施　目標/取組内容・数値目標（一部抜粋）

取組項目	実施目標 MP（5 年後）	取組内容／数値目標
③募集力・就職力	入学定員充足率 100%を安定的に満たす。	① 魅力あるオープンキャンパス実施による参加者数の増加
		② 受験生が興味を持つ各種情報発信による資料請求者数の増加
		③ 細かな記事更新と SNS の活用によるホームページアクセス数の増加
		④ 中四国地方を中心とした戦略的な高校訪問の実施
		⑤ 高校教員対象進学説明会参加者数（視聴も含む）の増加
		⑥ 高校内ガイダンス・大学見学会等の依頼数の維持
		⑦ 年内志願者数の増加
		⑧ 年明け志願者数の増加
	ｷｬﾘｱ教育、就職・進路指導の充実	就職率 100%の達成と維持
		就職満足度 95%の達成と維持
		公務員（都道府県・市町村採用教員保育士を除く）就職率の向上と維持
	各業界における本学の認知度の向上、連携を深めるための取り組み	企業や事業所への訪問及び来学対応数の維持
		各就職支援団体（他県の団体を含む）8 社との年 2 回の情報交換
	各業界における本学の認知度の向上、連携を深めるための取り組み	就職ガイダンス等への参加率の向上
		就職ガイダンス等への参加率の向上
		就職に関わる資格取得率の向上

高等学校　実施目標/取組内容・数値目標（一部抜粋）

取組項目	実施目標 MP（5 年後）	取組内容／数値目標
①教育力	建学の精神に基づき温かく丁寧な教育を進めることにより、主体性溢れ個性輝く生徒が育ち、高い満足度が得られている。	①－1 グラジュエーション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえ、すべての教科で生徒の実態にも対応したシラバス、ルーブリックが策定され、的確にマネジメントされている。
		②－1 各教科が毎年 1 回以上研究授業を実施し、研究・研鑽を積んでいる。
		②－2 全ての教員が、校内の研究授業に 1 回以上参加している。
		②－3 外部の研修会、研究会に参加する教員が 60%いる。
		③－1　模擬試験の結果を分析し、学年単位、教科単位で生徒個々の成績が共有され、生徒個々に応じた学力向上策が講じられている。
		④－1 海外留学に関する情報提供や前年度の取組紹介をする説明会を開催する。
		④－2 LCIC での海外研修プログラムを推進する。
		⑤－1 教育相談会議を月 1 度開催し、課題を抱える生徒の情報を生徒指導、学年団で共有する。
		⑤－2 スクールカウンセラーを週 2 回招聘し、生徒、保護者との面談機会を確保する。
		⑤－3 教員向け、あるいは希望する保護者向けの教育相談の研修会を開催する。

高等学校　実施目標/取組内容・数値目標（一部抜粋）

取組項目	実施目標 MP（5 年後）	取組内容／数値目標
②募集力	自身の適性を見定めて進路実現したことや個性を生かしてクラブ活動や地域貢献活動に取り組んだことを効果的に発信することにより、後に続きたいと考える志願者がじわじわと増えている。	①－1 効果的なオープンスクールや入試説明会の実施により、年間で延べ 800 名の参加者を集める。
		①－2 ホームページや Instagram、X を通じて魅力的でタイムリーな入試広報活動を行う
		①－3 安佐北区・安佐南区の重点中学校を中心に、本校の高校説明会や相互参加型のイベント等の実施を働きかけ、実施する。
		②－1 入試情報のタイムリーな提供と入試相談への丁寧な対応のため、重点中学校・学習塾への訪問を年間 3 回以上行う。
		③－1 受験生に選んでもらえる魅力的な奨学生制度となるよう、学習成績だけにこだわることなく、対象者の幅を柔軟に見直す。現行の「ぶんきょう奨学生」に加え、「ぶんきょう教育支援奨学生（仮称）」を設けることで、推薦入試の受験者数を増やす。
		③－2 部活動の活性化のため、重点クラブを指定し部員獲得を図る。
③進路実現力	キャリア教育を着実に展開する中で生徒理解を深め各人の適性を見出し、進路開拓を丁寧に後押ししている。	①－1 国公立大学への進学者が 10 名以上いる。
		①－2 広島文教大学への進学者が在籍生徒の 25%以上いる。
④部門収支	構成員が知恵を寄せ合って教育のソフト面とハード面の充実を図りながら定員確保を続け、2030 年度における経常収支の状況も徐々に改善している。	①－1 奨学生制度、公的機関の補助金制度を活用して生徒数の増加を図り、赤字を段階的に減少させる。
		①－2 予算を効果的に運用し、施設建物、設備を整備する。

幼稚園　実施目標/取組内容・数値目標（一部抜粋）

取組項目	実施目標 MP（5 年後）	取組内容／数値目標
①教育力	モンテッソーリ教育の資格取得者の増加	モンテッソーリ教育の資格取得者の増加（現在 9 名→11名）
		モンテッソーリ教育の体操資格取得者の増加（現在 7 名→8 名）
②募集力	参加人数の増加	たまごひろば参加人数、参加設定定員（15名）の1．7倍の申し込み
		ころころフレンズの参加人数の増加定員40名、応募者40名
③部門収支	各種取組による増収	木ッズ利用者の増加による増収現在400万→450万の増収
		課外活動の参加者増加による増収100万→20%増（20万増）